



「学問の魅力」や高校との「学びのつながり」をひもとく

学びのみちしるべ

第8回

大学での学びの中身と、その学問が社会でどう役立つのかを大学の先生が解説。進路選択のみちしるべとなるよう、高校での学びがその学問にどうつながるのかもお聞きしました。



商学

【お聞きした先生】>> 愛知学院大学 商学部 青木均教授

Q この学問の内容、面白さは？

A 売買を中心とした経済活動を実践的に学ぶ学問。小売業に関わる社会現象の探究が面白い！

商学の「商」は、「あきない」と読みます。その語源は諸説ありますが、昔は収穫物や織物などを秋に人々が交換したことから、「秋なふ」から動詞「あきなふ」が生まれ、「あきない」になったといわれています。そんな太古の昔から行われていた「商い」ですが、今も私たちの生活において商い＝売買活動は必要不可欠なもの。商学は、この売買という取引活動に注目した学問です。具体的には、時代や顧客のニーズに合わせて商品化し、安全かつ適切に顧客に届けることを探究する「流通・マーケティング」、資金調達など、お金の流れの仕組みを考える「金融」、そして、事業組織のお金の流れを管理する「会計」や、コンピュータネットワークを使って行われる売買などを考える「ビジネス情報」などを学びます。

私の専門はマーケティングで、特に小売業にまつわるマーケティングを研究しています。毎日、買い物に行くコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ドラッグストアなどでどのような売買活動が行われているのかを探っています。

実は、私の実家は商店街にある薬局でした。子どもの頃の商店街は毎日、人があふれかえって活気がありました。それが中学生になった頃から衰退し始め、そのうち人の姿がほとんどなくなってしまった。一方、郊外にはドラッグストアやスーパーマーケットが次々出てきます。この栄枯盛衰はどうして起きたのか。個人商店や商店街の努力が足りなかったからかと思っていたのですが、それだけではなく、当時、車社会の発展で、私たちが車でどこへでも行き、まとめて買い物をするという生活スタイルが変わったからだとマーケティングの勉強を始めてから気づきました。まさに、小売業は私たちの生活の映し鏡、そこにすごく魅力を感じています。現在は、日本におけるスーパーマーケットがどのように生まれ、発展したかを調べているところです。「どうしてあの店は繁盛しているのか」「なぜ、あそこには人が集まるのか」といった今起きている現象をひもとくには、歴史をたどるのが一番からです。

学生は基本的にそれぞれのテーマで研究を進めてもらっています。最近だと、「そもそも無料でゲームが楽しめるのに、人はなぜお金を払ってまで有料のゲームをするのか」という疑問から、フリーミアムについての研究発表をまとめた学生がいました。こんな具合に日常生活で当たり前のようにやっていることや、利用しているサービスを学問として成立させ、研究できるところが商学の面白さです。

Q 社会でどのように役立つ？

A どんな仕事においても“売買”は生じる。複雑な社会現象を見通す力も磨かれる

商学に近い学問として経済学、経営学があります。経済学が企業を取り巻く経済活動の研究で、経営学は企業の経営管理をテーマとする研究です。それに対して商学は売買を中心に生産と消費の関係性をひもとく学問になります。最もマーケティングを重視しており、消費者の特性にアプローチする研究が中心です。ですから、製造業、物流業、商社、小売業、サービス業などの現場で生かせる学問と言えます。マスコミなどへの就職にも有効です。もちろん、それ以外のどんな仕事においても必ず売買活動は生じるわけですから、どんな職業に就いても商学で得た知識やスキルを生かすことができます。

また、消費者行動やお金の流れなどを自ら調べ、研究することで複雑な社会現象をうまく見通す力が養われます。その力はどんな仕事に就いても、また、どんな人生を歩んだとしても役に立つはずですよ。

Q 高校の科目とのつながりは？

A 政治経済は必須。歴史は“庶民の生活の歴史”に着目して

政治経済はすべて商学につながっていきます。歴史も一見無関係のようですが、偉大な人物の偉業だけではなく、教科書には庶民の生活も出てきますので、そのあたりの知識は後々役立ちます。ぜひ着目して読んでみてください。余談ですが、私は武将としての平清盛が好きだったのですが、彼は日宋貿易で財政基盤の改革を行い、初めて貨幣を流通させ、貨幣経済の基礎を築いた人だったんですね。そのことに最近になってハタと気づく、こういった発見の喜びも歴史を学んだからこそ味わえるものです。

また、コンビニやスーパーマーケットへ行った際は、何気なく買い物をするのはなく、「なぜこの棚にこの商品が置いてあるんだろう」とか、「このチョコレートはお父さんが子どもの頃からずっと売られているという。なぜ、そんなに売れ続けているんだろう」と、ちょっと意識してほしいと思います。実は、これが一番マーケティングに役立つことなんです。私は今でも、スーパーやコンビニなどへ行くときワクワクし、新商品などもすごく気になります。そういう人に商学は向いていると思います。



オススメ BOOK
「セブン-イレブンは日本をどう変えたのか」(吉岡秀子著 双葉社) コンビニが社会インフラとしての役割も果たしていることなどもわかり、勉強になる。



薬学

【お聞きした先生】>> 明治薬科大学 生体分子学研究室 長浜正巳教授

Q この学問の内容、面白さは？

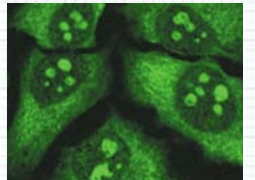
A 薬の作用や病気の背景を学んだり、新しい治療の実現を目指した研究を行う

薬学部には薬剤師国家試験の合格を目指す薬学科(6年制)と、薬学の研究を主体とする薬科学科(4年制)があります。本学は4年制の学科を生命創薬科学科という名称にしています。両学科とも生命科学、創薬化学といった基礎研究をはじめ、薬物が生体にどのように作用するか、どのような効果を発揮するかを学ぶ薬理学、病気に対する総合的な理解を深める病態生理学、さらに薬事法規などを学びます。薬学科の学生は5年次から病院、薬局での実務実習に入ります。

私の専門は生命の基礎研究にあたり「リボソーム」というものを研究しています。私たちの体を形作り、体を動かしたり、体内でさまざまな化学反応を引き起こしているのがタンパク質。生命を持続するために必要不可欠なものです。そのタンパク質を細胞内で合成する装置のようなものがリボソームです。この仕組みを明らかにする研究は、すなわち生命の根幹を探ることであり、非常にロマンを感じています。

しかも、疾患の解明にも直結しているんです。特にがん細胞との関係で、リボソームの組み立てに異常があるtp53というがん抑制因子が活性化し、がん細胞の増殖を抑えられようと考えられています。要はアクセルとブレーキが自然に動き、私たちはがんにならないようバランスが取れているわけです。それでもブレーキが壊れて発がんしてしまう人がいるのですが、なんとか薬ベースでp53を増やすことができれば、自然にがんを抑え込むことができる。つまり、リボソームを組み立てるメカニズムがわかれば、副作用がグッと軽減された、従来のものと比べてはるかに体に負担の少ない抗がん剤が開発できるかもしれません。そのために、まずはリボソームの仕組みを明らかにしようと日々懸命に研究に携わっています。

そもそも私自身は、生命というものへの好奇心から基礎研究者になったこともあり、その生命の根源的な部分にアプローチできていることが何よりうれしい。かつ、それががんという疾患を治すことにつながり、人の役に立つかもしれないというのが大きなモチベーションになっています。



細胞内のリボソームの様子を写した蛍光顕微鏡像

Q 社会でどのように役立つ？

A 今は生物の基礎研究が医療に直結する時代。薬剤師だけでなく、臨床開発を目指す学生も

かつては基礎研究と臨床で使われる薬の開発とは距離があったのですが、今は私たちの研究が医療に直結して役立つことが増えています。というのも、以前は化学合成や有機合成が製薬の主流だったのですが、今は体から取り出してきた抗体分子やタンパク質などを使うバイオ医薬品にシフトしています。そのため、基礎研究の成果がそのまま具体的な医療につながるというケースが増えているわけです。例えば、先日、ノーベル賞を受賞した京都大学特別教授の本庶佑先生の研究によって、新しいがん治療薬オプジーボが開発されました。がん免疫療法の発展に多大な貢献をされています。

卒業後、薬学科の場合、国家試験を受けて薬剤師になる人が圧倒的に多いですが、生命創薬科学科は大学院へ進学する学生もたくさんいます。薬の知識を生かして製薬会社の営業(MR)や、医薬品の臨床開発(CRO)の職に就く人も多いです。その他、科学系の出版社や薬事法に詳しい人を求める法律特許事務所などに就職する道もあります。いずれにしても、今後はさらにさまざまな領域で薬の詳しい知識を持つ人材が求められるはずですよ。

Q 高校の科目とのつながりは？

A 理系科目全般の知識はあったほうが良い。日頃から科学雑誌をチェックすることも大切

実は、どの研究室に入るかによって必要な知識が変わってきます。私のような生体分子系の研究室であれば、圧倒的に生物の知識が必要ですが、化学はそれほど必要ではありません。反対に有機化学系の研究室なら、化学が不可欠ですが生物はそれほど重要ではなくなってきます。高校の段階で、どの研究室へ自分が進むかを決めるのは難しいと思うので、理系全般をしっかりと学んでください。ちなみに私の研究室で物理や数学を使うことはあまりありません。ただ、この2つの科目をしっかりとっておくことで論理的思考力が磨かれます。研究にはこの論理的思考力が大事です。

私自身は中学の頃、「ニュートン」という科学雑誌をよく読んでいて、それが高校から大学へ進学する際の進路選択にすごく役立ちました。高校生のみならず受験勉強で忙しいかもしれませんが、理系の学部を目指すなら、時折こうした科学雑誌や、一般向けに科学を解説している講談社のブルーバックスシリーズなどを読んでおくといいと思います。自分が何に興味があるか見えてきますよ。